

地域ケア会議の効果と課題 ～インタビュー調査から見てきたこと～

静岡福祉大学 檜木博之

要旨

本研究では、地域ケア会議の効果と課題を明らかにしていくことを目的とし、A 県内にある委託型の地域包括支援センター5 か所及び市町村 1 か所に個別インタビュー調査を行った。地域ケア会議が浸透してきたことによる効果も見えてきた一方で、本来の目的である政策形成に繋がっていないという課題も明確になった。

1 研究目的

地域課題を明らかにし、社会資源の開発や政策形成に繋げていく地域ケア会議は、地域包括ケアシステムの構築に欠かせない。地域ケア会議を主催する市町村・地域包括支援センターは、その役割を果たしていくことが求められている。しかし地域ケア会議が、資源開発、政策形成に繋がっていないことが指摘されている。本研究では、地域ケア会議の効果と課題を明らかにしていくことを目的とする。

2 研究方法

A 県内にある委託型の地域包括支援センター 5 か所及び市町村 1 か所に個別でインタビュー調査を行った。調査期間は地域包括支援センターが 2021 年 6 月～10 月、市町村が 2022 年 11 月とした。調査対象の選定方法は、地域包括支援センターは委託型であること、別々の市町村であること、市町村は地域包括支援センターと別地域とした。インタビューを IC レコーダーに録音、若しくは zoom の場合は録画を行い、その後、文字起こしを行った。分析方法は、地域包括支援センターではテープ起こししたデータをラベル化し、類似性を持ったラベルをサブカテゴリーに分け、サブカテゴリーを更に類似性を持ったカテゴリーに再編し、表札を作成した。市町村は、地域包括支援センターの結果を比較し、分析を行った。

倫理的配慮として、静岡福祉大学研究計画倫理審査に申請し、令和 3 年 5 月 11 日に承認を得ている。(承認番号 SUW21-1)

3 結果

(1) 地域ケア会議の効果

カテゴリーは「地域課題の明確化」「個別課題の解決」「地域ケア会議の理解」の 3 つとした。「地域課題の明確化」のサブカテゴリーとして、

「個別の共通した課題」「各機関の見える化」等があげられた。「個別課題の解決」のサブカテゴリーとして、「支援の再構築と役割分担」「解決に繋がるヒントへの気づき」等があげられた。「地域ケア会議の理解」のサブカテゴリーとして、「介護支援専門員の意識の変化」「関係機関の連携に繋がる」があげられた。

市町村は、各圏域の地域ケア会議からボトムアップで地域課題を集約することができていた。

(2) 地域ケア会議の課題

カテゴリーは「政策形成に繋がらない」「会議の運営」「地域ケア会議に関わる人」の 3 つとした。「政策形成に繋がらない」のサブカテゴリーとして、「個別会議と推進会議の連動」「ボトムアップとトップダウン」等があげられた。「会議の運営」のサブカテゴリーとして、「会議の事前準備」「会議を進行する力量」等があげられた。「地域ケア会議に関わる人」として、「担当者の変更」「地域ケア会議への意識」等があげられた。

市町村は、各圏域で行われる地域ケア会議あらあがってくる地域課題を、地域ケア推進会議で市全体の課題として明らかにできておらず、政策形成につながっていなかった。

4 考察・結論

地域ケア会議が浸透してきたことによる効果も見えてきた一方で、本来の目的である政策形成に繋がっていないという課題も明確になった。市からトップダウンで方針がくる等、委託型地域包括支援センターとしての限界とジレンマも抱えていた。一方、市では各圏域からボトムアップとして上がってくる地域課題を、地域ケア推進会議にて政策形成につなげることができていなかった。地域ケア個別会議が地域ケア推進会議と連動し、政策形成につなげる体制構築が急務である。